

# マルハとニチロ統合

## 来年10月 魚価高騰に対応

国内水産最大手のマルハグループ本社と業界3位のニチロは11日、2007年10月1日に経営統合すると発表した。株式交換方式で、純粋持ち株会社のマルハグループ本社の傘下にニチロが入る形となる。統合により、売上高が1兆円に迫る。巨大水産企業が誕生する。

新統合会社の名称は、マルハニチロホールディングス（仮称）で、会長にニチロの田中龍彦社長、社長にマルハの五十嵐勇二社長がそれぞれ就任する。統合比率は、来年5月までに第三

社に再編・集約する。

### 水産大手の売上高順位

マルハニチロホールディングス	
1. マルハグループ本社	7192
2. 日本水産	5396
3. ニチロ	2541
4. 極洋	1528

（単位：億円。売上高は2006年3月期）  
（速結決算）

者機関の判断も踏まえ正式に決める。

統合して一定期間後に、

持ち株会社の下で、両社の

事業を①水産②食品③畜産

④物流精完の4事業会

社に再編・集約する。

両社は2010年をめどに売上高1兆円、本業のものを示す営業利益3000億円を目指す。06年3月期の合計では、売上高が9733億円、営業利益は151億円となっており、統合により、特に利益面で大きな伸びを見込んでいる。

欧米や中国などで海の魚を食べる習慣が広がり、世界的に水産物需要が高まっていることに加え、漁獲規制が強化される傾向にあり、魚の価格が高騰している。一方、国内市場は縮小傾向にある。このため、水産

食品業界では、原材料価格の高騰を製品価格に転嫁することが難しく、利益の圧迫要因となっている。規模拡大による経営基盤の強化が急務となっていた。

〈関連記事11面〉